

## アドバイス

## 推薦のことば

## 1. 何故、今「原子力」か!! 今こそ「原子力」!!

世界の原子力民生利用が開始されて60年余。わが国でも国の管理のもとに進められ、今日まで、原子力発電は総発電電力量の1/3を超える基幹電源として、社会を支え環境と両立するエネルギーの安定供給に大きく寄与してきたほか、放射線利用でも工業、医学、農業面で着実に進んでいます。しかしながら、福島第一原発事故以降、原子力発電への社会の信頼が低下し、これを支える技術者や熟練者などが減少している上、大学での原子力技術者の育成も進んでいません。今後はこの人材を計画的に確保しながら、原子力のさらなる安全・安心の確保を図ることが極めて重要とされています。また、福井県は原子力発電所の運転や廃止措置に主導的役割を担う地域であり、エネルギーに関する研究開発、人材育成、産業活性化の拠点化を進めています。

このような背景から、「原子力技術応用工学科」を設置し、広い理工学分野の知識を持って原子力の技術基盤を理解し、現場で柔軟、的確に対応できる倫理観を備えた実務的専門技術者を計画的、継続的に育成し、原子力技術の確実な安全向上と利用に役立たせるとともに原子力研究等を通して地域産業界に貢献することになりました。

## 2. こんな勉強と実験!!

原子力技術応用工学科は理工学の基礎知識を含めて広く原子力について学び、知識を修得するとともに、電気、機械、化学などの基礎実験、放射線や原子炉シミュレータ等の実験のほか、原子力現場での実務研修を行います。授業内容は、少人数教育を実践しており、放射線取扱主任者、エックス線作業主任者、技術士補（原子力・放射線部門）、危険物取扱者、公害防止管理者、電気主任技術者、エネルギー管理士の資格取得に必要な内容を多く含み、さらに補習により非常に多くの合格者を生み出すシステムを構築しております。

## 3. 放射線取扱主任者の資格は工業に不可欠

放射性物質の使用は分析、製品管理、製造部門等、工業的に幅広く利用されています。しかし、放射性物質の使用には必ず、放射線取扱主任者の資格を持った人がいなければなりません。そのような資格を持っている方は会社としては不可欠な人です。ただし、本の上だけの勉強では、何か問題が生じたときの対処ができません。原子力技術応用工学科は、多くの実験をカリキュラムに取り入れることにより、実践に耐えうる技術者の養成を目指しております。

## 4. 取得に経験を要するので、その基礎を学ぶ資格

今までは在学中に受験資格のあるものを紹介してきましたが、次に示すものは、受験資格として経験を必要とするものです。在学中には受験できませんが、本学科の授業を受講すればその基礎知識を得ることができます。

①電気主任技術者（経験1年以上） ②ボイラー技師（経験3ヶ月以上） ③冷凍空調技師（経験3年以上） ④技術士補（原子力・放射線部門第2次試験） ⑤原子炉主任技術者（2次試験は経験6ヶ月以上） ⑥核燃料取扱主任者

おすすめ  
受験資格

在学中に 受験可能な 資格試験	放射線取扱主任者（1種、2種）	エックス線作業主任者
	技術士補（原子力・放射線部門）	危険物取扱者
	公害防止管理者	電気主任技術者
	エネルギー管理士	非破壊試験技術者